

建築デザインを介した生活空間支援の実践的研究

研究代表者 入江 正之
(創造理工学部 建築学科 教授)

1. 研究課題

時代の変革期において、建築の概念も変化してきており、その自覚のもとに建築デザインを介して、社会における多様で、新しいニーズにどのように対応していくかが問われている。建築的遺構の修復・再生とそれに伴う街の活性化支援、地方歴史的都市の街づくり支援、また都市施設の多様な展開における宗教建築の今日的在り様、省エネ・省資源に対応した建築計画、さらに幼児・初等教育環境の空間的在り方などをキーワードとして、建築デザインが社会におけるニーズ動向に対応して、多様で、新しい生活空間要求に支援という視点で、実現できるかを、課題とするものである。

2. 主な研究成果

永年継続しているスペイン、カタルーニャ州の伝統的な石造民家マジア集落の再生と地域の活性化を主題とする研究と、公共施設に関する公募型の設計競技については、プロジェクト研究の主意に沿う形で、それらの施設の設計提案が各々の地域の生活支援にどれほどの提案ができるかをもって取り組んでいる街づくりと施設の提案的な設計研究が主なものであった。

2.1 (仮称) まちなか交流センター基本設計・実施設計業務委託に係る公募プロポーザル

(仮称) まちなか交流センター基本設計・実施設計業務委託に係る公募プロポーザル(建築設計競技)、



那須塩原市、1200 m², 佳作

栃木県那須塩原市の黒磯駅前近傍に地域の活性化と市民の交流を促進する場の提案を基本とする公募型のプロポーザルの設計競技である。地方都市にある地域資源の掘り起こしと、生産の在り様、また市民の交流の舞台としての多様な空間づくりを行っている。

2.2 府中市新庁舎建設基本・実施設計委託に関する公募型プロポーザル

府中市新庁舎建設基本・実施設計委託に関する公募型プロポーザル、

府中市、30,000 m²、6位 (一次審査次点)

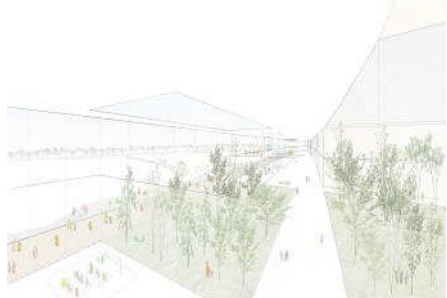


表題のとおり東京の郊外府中市の庁舎建て替えを主意とする公募型の設計競技に関する設計研究である。敷地の大国魂神社に併設する場所性をどのように読み解くのか、それは同時に場所の歴史性をどのように整理して新しい施設計画に反映させるのか、さらに技術的な問題として、既存庁舎を使用しつつ最終的に全面的に建て替えると同時に、散在した部署も統合し

て新庁舎としてまとめること、といういくつかの課題を提案の骨子としてまとめた。市庁舎をcomi-tia「共に作ること」という民主主義の原点の概念を理念として取り組みつつ、場所の歴史性にある国府における条理の痕跡と、現状における500mを越える隣接する櫛並木参道からの「森のストラクチャー」の提案をコミティアホールとして、市庁舎の改めての役割を問うている。このことをとおしての市民の生活支援の場所としての庁舎建築の今後の見透かしを行ったものである。

2.3 (仮称) 八戸市総合保健センター建設事業設計者選定プロポーザル

(仮称) 八戸市総合保健センター建設事業設計者選定プロポーザル、
八戸市、16,000 m²、3位 (佐藤総合計画と協同設計)

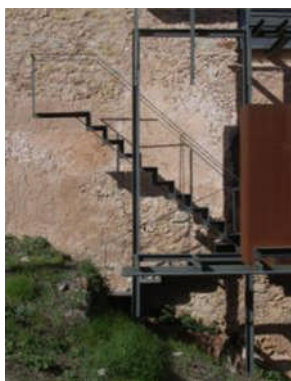


八戸市郊外、市街に直結する幹線道路沿いにある敷地に、既存の大型の既存市民病院と向かい合う形での市の保健センターと保健所等の複合的な医療保健施設の公募型プロポーザル設計競技に関する設計提案である。機能的な内容を十全に果たしながら、なおかつ地方都市の公的施設の意味と高齢化社会における多世代の交流可能な賑わいの場であるよう提案を行った。

2.4 スペイン伝統的石造民家における伝統的構法のワークショップ開催

(国際ワークショップ主催)

・スペイン伝統的石造民家における伝統的構法のワークショップ開催, 2015-12-27-30,
Fatges Baix –Camp, Tarragona, Spain



スペイン、カタルーニャ州の伝統的石造民家マジアの残存遺構について、タラゴナ県ファッチェス離村集落にある対象遺構A棟について修復・再生を行ってきている。今年度も修復・再生の第三ステージとして、A-3 住戸の南側から東側に至る擁壁的外部壁体の石積み作業を行った。カタルーニャの煉瓦の伝統的工法による床・天井の構築をすべく材料の選定や、工法についての職人との打ち合わせなどを進めた。また、隣接するB棟について壁の亀裂などの補修も行ったが、集落としての場所の持続性を考慮したからである。第三ステージの計画案に沿って、左官工ジュゼップの指導の下に予定の作業を終え、マジア集落におけるエラera、バデューbadieutoiuといった場の概念の実現を継続していきたいと考えている。

3. 共同研究者

小松幸夫(創造理工学部・建築学科・教授)
長谷見雄二(創造理工学部・建築学科・教授)
田辺新一(創造理工学部・建築学科・教授)
輿石直幸(創造理工学部・建築学科・教授)
山村健(創造理工学部・建築学科・専任講師)
人見将敏(創造理工学部・建築学科・助手)
吉川由(創造理工学部・建築学科・助手)
和久田幸佑(入江研究室・招聘研究員)
早田大高(入江研究室・招聘研究員)

4. 研究業績

4.1 学術論文

(査読付論文)

人見将敏・入江正之、「G. A. T. C. P. A. C. 結成によるカタルーニャ近代合理主義建築運動の契機について - 建築家集団 G. A. T. C. P. A. C. (現代建築の発展を目指すカタルーニャの建築家技術者集団) 研究 (1) - 」、日本建築学会計画系論文集、第 81 巻 第 721 号、pp. 781-789、2016. 3

4.2 著作 (編集協力)

KIMBELL ART MUSEUM DRAWING COLLECTION, A+U 2015:07,538

4.3 学術講演

本文「美学者ミラ・イ・フタナルスの思想について(9) アントニ・ガウディ・イ・コルネット研究」山村健、入江正之、2015年、F-2分冊、p. 371

4.4 建築作品 (掲載)

「こだま幼稚園子育て支援センター」、山村健 (担当) / 早稲田大学入江正之研究室+DFI、『ぐんま建築ガイド』上毛新聞社事業局出版部、2015年10月21日

入江正之・入江高世・和久田幸佑・人見将敏・早田大高、幹線道路沿いの白い空隙 -中野の集合住宅、新建築 2016年2月号、第91巻4号、pp. 146-151

5. 研究活動の課題と展望

建築デザインは社会動向 (政治、経済、文化、生活等全般) に直結に関わる事象であるがゆえに、常態が本質的に変容を旨としている。今年度は、公共施設の公募型設計競技のプロポーザル提案を数多く行ってきた。市民のための公共施設を、行政が市民とともに課題を付すこのタイプの建築デザインの在り様は、建築デザインの本質の様態を時間の急速な展開の内に見逃すまいとして、社会の動向にあるニーズを改めてとらまえるうえで、重要な建築専門分野の営為と映る。今後も変容する課題に沿って、建築デザインの概念を生活支援に向けて、常に更新していくことが望まれようし、生き生きとした取り組む姿勢が必要とされよう。